

# МАрХИ マルヒー

Московский  
Архитектурный  
Институт  
モスクワ建築大学



## 建築教育の宿命

ロシアと、または旧ソ連と呼ぶべきは、まだ、名称も明確でない、国家体制の基礎すらできていない、以前の大同ソ連。そのソ連という世界史上初めての社会主義国家のなかでいかなる建築が創造され、建築教育が行われてきたか、興味あるところである。

旧ソ連においてモスクワはすべての中心であった。中央集権的な国家体制において、旧ソ連の政治・経済・文化・科学などは首都モスクワでコントロールされていた。そのため、モスクワには、すべての部門の頂点を担う機関が置かれた。もちろん建築においても同様である。ソ連邦建築省を統轄し、すべての建築家が所属する建築家連盟(ソビエト・Архитектур)もモスクワの中心に位置する(しかし、今やこの機能は失い、アラブ化している)。そして、そのモスクワにある建築教育機関は、モスクワ建築大学ただ一つであった。よって、この建築大学が連邦最良時の建築教育機関となった。モスクワ建築大学は、ロシア語名のモスコフスキー・Архитектуральный・Институтの頭文字を取り、マルヒーの通称で呼ばれている旧称、マルヒーに統一。

ソ連では、義務教育8年間を含む10年間の初等中等教育を修了した後、高等教育機関である専門大学または総合大学への入学が許される。マルヒーは、その専門大学の一つである。そして、社会主義国家のための建築技術者を養

成していき、卒業生たちはそれぞれの建築国家機関に配置されていく。これが従くして与えられた唯一の進路であった(しかし、ゴルバチョフ政権以降変化してきた)。

さて、マルヒーでは実際のどのような教育をしているのだろうか。ソ連崩壊後、従来の教育姿勢には大きな変化は見られない。唯一変わった点といえば、1年生の必修科目として学生にはたいへん重要であった「ソビエト美術史」の科目が消えたぐらいであった。マルヒーの教育を簡単にいってしまうと、アカデミックなデザイン教育と機能合理主義的建築技術が融合せず、混ざり合ったものといえるだろう。このアカデミックなデザイン教育とは、一言でいえば、以前のバリのスクール・オブ・ゴザールで行っていたアカデミックなデザイン教育である。

この教育方針は、入学試験のときにまず知覚に現れる。ここでは、画力の評価に重きが置かれる。石膏デッサン・立体構成・習字における線の美しさを評するテストなどが行われる。数学をはじめ一般教養の試験もあるが、実践試験のほうが重視される。

学生たちは、1年生になると60×40cmの合板のボードが与えられ、それに水彩紙を張り付け、その上に設計課題をプレゼンテーションする訓練をしていく。その設計課題を制作していく過程において、最も重要視されることは、計画への考え方や、デザインコンセプトを熟考していくことではない。水彩技法のみで60×40cmのボードに簡単に要求図面をレイアウトしたかを、美学的観点からチェックしていく作業が重んじられる。